

# うどん県民から見た「うどん屋の観光客」に対する意識調査

近年、増加している観光客のうち、うどん屋で見かける観光客を香川県民がどのように見ているかを把握するため、アンケート調査を実施し、その結果をとりまとめたので、報告する。

## 調査結果の要旨

### 県民がうどん屋の観光客を見て感じたこと

- ✓ 県民の6割が、うどん屋で見かける観光客は1年前から「増えた」と感じている。
- ✓ 観光客が注文するうどんは、県民と「同じようなうどん」が21%で最も多いが、「目新しいうどん」も20%と多い。
- ✓ 増加する観光客に対する県民の見方は、うどん屋が混雑する懸念を持ちつつも、店が繁盛し、さぬきうどんの知名度が向上する面があるとプラス評価している。

## はじめに

香川県は近年、インバウンドや県外からの観光客が増加している。さらに直近では、観光宿泊旅行で総合満足度1位(「じゃらん観光国内宿泊旅行調査2025」)になるなど、特に注目されている。その理由は、名物の「うどん」もあって、旅行費用が全国平均よりも1万円以上も安く、物価高騰の中にあってもコストを抑えて楽しめるところが、旅行者に評価されているということである。

そこで、増加する観光客を県民がどのように見て、評価しているかを把握するため、今回、「うどん」を通してアンケート調査を行った。

### ※調査の概要

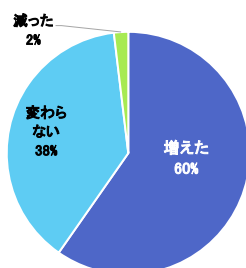
香川県内在住の20～69歳の男女を対象に、今年9月にインターネットで実施し、476人の有効回答があった。

## 1. 観光客は増えたか

うどん屋で食べている観光客を観察して、1年前と比べて観光客数が増えたかを尋ねたところ(グラフ1)、県民の6割が観光客は「増えた」と回答があった。

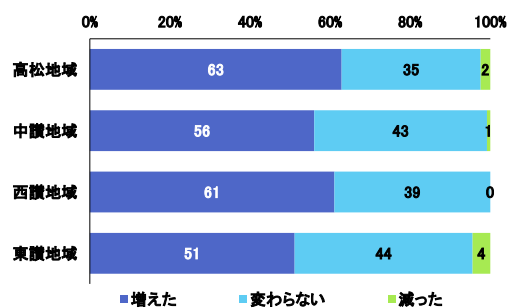
「増えた」観光客が観

グラフ1 観光客の変化



察された地域としては、高松地域が63%で最も多く、次いで西讃地域61%となっている(グラフ2)。栗林公園や屋島などの観光地に近い高松地域や父母ヶ浜で有名になった三豊市がある西讃地域で、うどん屋に立ち寄る観光客が増加したためと考えられる。

グラフ2 地域別 観光客の増減

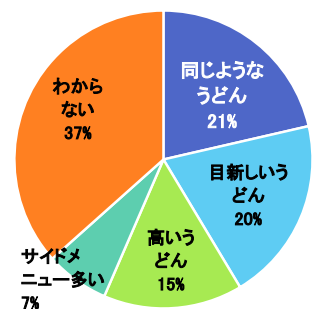


## 2. 観光客は何を食べたか

うどん屋で見かけた観光客はどんな「うどん」を食べていたかを県民に尋ねたところ、次の回答が得られた(グラフ3)。

観光客が食べているのは「県民と同じようなうどん(グラフ表記: 同じようなうどん)」が21%で最も

グラフ3 観光客が食べるうどん

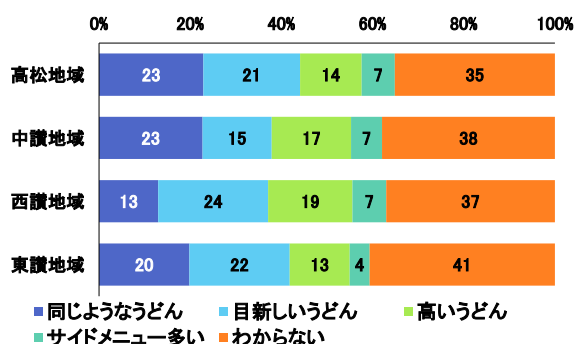


多くなった。この比率について、県内のセルフ方式に馴染んでいない観光客は県民の注文方法を見習うだろうと考えられたため、同比率はもっと高くなると想定されたが、結果は想定よりも低くなった。

次いで、「県民には定番ではないが、目新しいうどん（同：目新しいうどん）」が 20%、「値段の高いうどん（同：高いうどん）」15%、「うどんに比して注文したサイドメニューの数が多い（同：サイドメニュー多い）」7%となっている。「目新しいうどん」は、最近、県民に馴染みのない新奇性のあるうどんメニューを提供して観光客に人気のある店もあるようで、それが県民の目を引いているようだ。

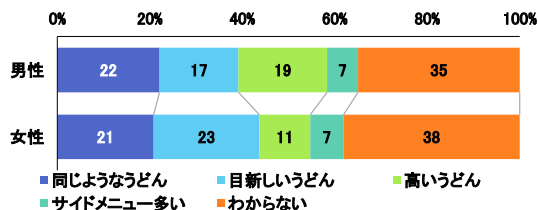
地域別にみると(グラフ 4)、高松地域と中讃地域では「同じようなうどん」が 23%と多く、両地域の県民は「同じようなうどん」を食べる観光客を多く見たようだ。一方、西讃地域では、「目新しいうどん」が 24%、「高いうどん」19%と多くなっている。

グラフ 4 地域別 観光客の食べるうどん



性別でみると(グラフ 5)、女性は「目新しいうどん」を食べている観光客に関心を寄せ、男性は「高いうどん」の観光客を注視しているところが、県民の視点としてあらわれている

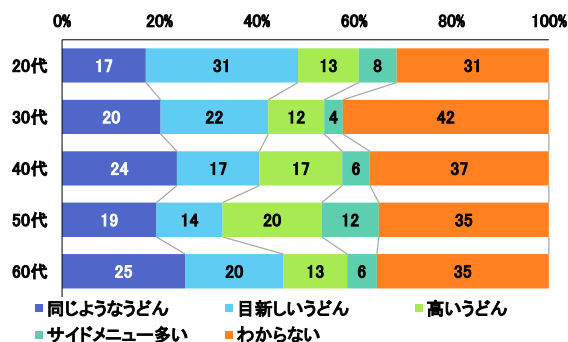
グラフ 5 性別 観光客の食べるうどん



年代別でみると(グラフ 6)、「同じようなうどん」では 60 代が 25%で最も多く反応している。「目新しいうどん」では、20 代が 31%と最も多く、若い世代の関心の高さを示す。「高いうどん」では、50 代が 20%と最も多く、観光客の消費行動(支払額)に対する印象が強く

表れている。

グラフ 6 年代別 観光客の食べるうどん



### 3. 増加する観光客の影響・効果

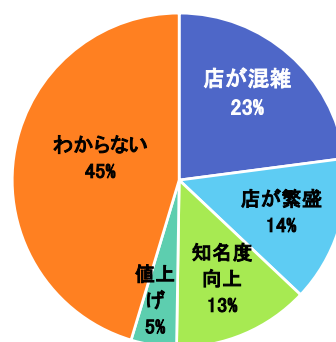
うどん屋に来る観光客が増加していることについて、県民の評価(影響、効果等)を尋ねたところ、「店が混雑する影響がある(グラフ表記：店が混雑)」が 23%で最も多くなった(グラフ 7)。

県内のうどん屋は、もともと昼どきに行列ができている場合が多く、そこに観光客が加わると、さらなる混雑への懸念が強まっているようだ。

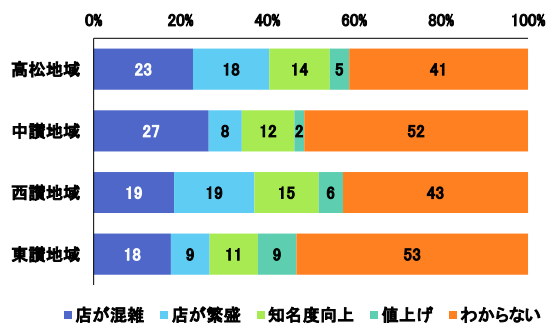
次いで、「多くの観光客が来て店が繁盛するならよい(同：店が繁盛)」14%、「さぬきうどんやうどん屋の知名度が向上すればよい(同：知名度向上)」13%とプラス評価している。一方、「観光客が多くなって、値上げされる(同：値上げ)」が 5%と、心配する県民もいる。

地域別にみると(グラフ 8)、「店が混雑」は中讃地域が 27%で最も多く、その地域のうどん屋が実際に混雑しているからと思われる。「店が繁盛」は西讃地域が 19%、次いで高松地域が 18%と、観光客の増加を評価している。

グラフ 7 観光客の影響・効果

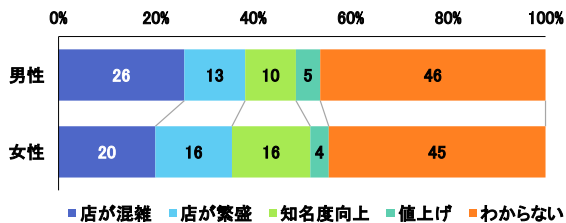


グラフ 8 地域別 観光客の影響・効果



性別では(グラフ 9)、より多くの男性(26%)が「店が混雑」と影響を懸念している。一方、女性は「店が繁盛」(16%)、「知名度向上(16%)」とプラス評価しており、好対照な結果となった。

グラフ 9 性別 増加観光客の影響



## おわりに

今回調査では「うどん屋の観光客」を取り上げて、県民の観光客への認識を探った。

県民は、うどん屋で見かける観光客が昨年より増加していること、それによってうどん屋が混雑する懸念は持ちつつも、店が繁盛し、知名度が向上するなどのプラス評価もしていることが分かった。

今後も、うどんを通して県民の意識を幅広い面から調査をしていきたい。

以上